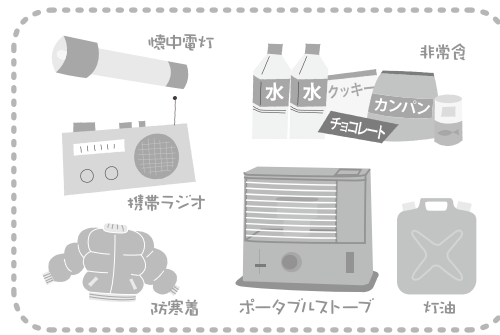


！ 日常から暴風雪に備える

▶ 家の中で安全に過ごすために

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想される時は、外出を避けましょう。
- 日頃から停電に備えて、懐中電灯・携帯ラジオ・防寒具・ポータブルストーブ・灯油・飲料水・非常食(ビスケット・乾パン・チョコレート・ようかんなど)などを準備しておきましょう。
- FF式暖房器などを使用している場合は、一酸化炭素中毒防止のため、給排気口付近が雪でふさがれないよう、こまめな除雪を心がけましょう。



▶ 車で外出するときに気をつけること

- 万が一に備えて、携帯電話を忘れずに。できれば、車用または電池式の充電器を持ちましょう。
- 車が立ち往生する可能性があるため、防寒着・長靴・防寒ゴム手袋・スコップ・けん引ロープなどを車に積んでおきましょう。燃料は常に半分以上あるようにし、外出後は燃料を補給しましょう。飲料水や非常食(ビスケット・乾パン・チョコレート・ようかんなど)も積んでおくことで安心です。
- 運転していて地吹雪などにより危険を感じたら、無理をせずに道の駅やコンビニエンスストア、ガソリンスタンドなどで天気の回復を待ちましょう。
- 大雪や吹きだまりなどで車が立ち往生したときは、JAFなどのロードサービスに救助を依頼してください。やむを得ないときは、警察や消防、近くの方などに連絡してください。また、ハザードランプを点灯させるなど、車が目立つようにしてください。連絡するときは、自分の居場所を伝えられるようにしましょう。
- 車が雪に埋まったときは、エンジンを切りましょう。マフラーが雪に埋まると、排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす恐れがあります。防寒のために、やむを得ずエンジンをかけるときは、こまめに窓を開けて換気するとともに、マフラーの周りを除雪してください。



▶ 屋根などの除雪を行うときに気をつけること

- 複数で！／除雪は複数で行いましょう。はしごを支える、周囲の安全を確認できるなどのほか、万が一の場合は、お互いに救助ができます。やむを得ず一人で行う場合は、家族や近所の方に声をかけてください。
- 滑り止め！／靴やはしごに滑り止めをつけるなどの工夫をしましょう。
- 命綱！／例年、雪下ろし中の死亡事故が発生しています。面倒でも命綱をつけましょう。

▶ 除雪機を使用するとき気をつけること

- 機械に巻き込まれないような服装で使用しましょう。
- エンジンをかけたまま放置しないようにしましょう。
- 通行人や子ども、車両の通行に注意しましょう。

▶ 知っておくと便利なもの

- JAFロードサービス救援コール ☎ 0570-00-8139・#8139(短縮ダイヤル)
- 気象・道路防災情報(インターネット・スマートフォン)の検索先

- ★ 気象庁
- ★ 北海道地区道路情報
- ★ 北の道ナビ
- ★ 北海道防災情報

<p>気象情報 気象庁 http://www.jma.go.jp/</p>		<p>通行止め情報 北海道地区道路情報 http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp/</p>	
<p>道路情報総合案内 北の道ナビ http://northern-road.jp/navi/</p>		<p>防災情報 北海道防災情報 http://www.bousai-hokkaido.jp/</p>	

問い合わせ先／役場総務課情報防災係 ☎ 482-2912(課直通)

暴風雪事故などに備えましょう

防災ワンポイントコーナー

昨年12月から今年3月にかけて、本町は10回以上の暴風雪に見舞われました。その間、8回もの暴風雪警報が発表されています。皆さん、暴風雪には大変、苦労されたと思います。

また昨年来、火山噴火や台風など、これまでにないような大きな自然災害が全国で起きました。今後の自然現象については「想定外」という言葉は使えないような状況です。わたしたち人間は自然の脅威には歯が立ちませんが、事前の防御行動で最悪の被害は免れることができます。

暴風雪への備えについて、今月と来月の2回に分けてお知らせします。ぜひ、日頃の備えに役立ててください。

！ 暴風雪が発生しやすいとき

▶ 暴風雪とは

雪を伴った強い風が吹くことです。降っている雪と積もっている雪も風で巻き上げられるため、視界が真っ白となります。また、風で運ばれた雪が建物や車などで遮られた場所にたまる「吹きだまり」が発生します。

▶ 暴風雪が発生しやすいとき

発達した低気圧の通過や、強い冬型の気圧配置のときに暴風雪が発生することが多く、天気図では等圧線の間隔が狭くなっています。また、低気圧の移動速度が速い場合や、地形が急に開けた場所などでは、風の強さや見通しが急激に変化するのも特徴です。風は強いけど晴れているな、と思っていたら、雪を伴って一瞬で暴風雪に変わることもあります。天気の急変には十分、注意が必要です。



吹きだまりで立ち往生したバス (北見市菅呂町 2013年3月3日)

！ 暴風雪による被害の特徴

▶ 吹きだまり

- 車の運転が大変危険になり、積雪が20センチ程度でも発進できなくなる場合があります。
- 住宅では、FF式暖房器などの給排気口がふさがれると、一酸化炭素中毒を起こす危険性があります。また、玄関が雪でふさがれて開かなくなることがあります。

▶ 暴風や視界不良による歩行困難

- 強い風で、まっすぐに歩くことが困難になります。また、雪で数メートル先も見えなくなり、方向感覚を失って自分の位置が分からなくなります。
- 視界不良により車からは歩行者が見えにくくなるため、歩行も危険になります。
- 体温が奪われて、低体温症になることがあります。

▶ 暴風による飛散物

- 看板や屋根などが飛んでくる場合があります。

▶ 停電

- 電線着雪や強風、飛散物などで電線が切れるなどで停電が発生し、照明や暖房が使えなくなることがあります。
- 天気が回復するまで復旧作業を行うことができず、停電が長期化することがあります。

● 道路の形状と吹きだまりの関係

道路には、まわりの土地よりも高い「盛土道路」と、低い「切土道路」があります。一般に「盛土道路」に比べて「切土道路」では、吹きだまりが発生しやすい傾向にあります。



盛土道路と切土道路での吹きだまりの様子

● 吹きだまりでの車の発進限界

道路の吹きだまりが深くなると、車の走行が困難になることがあります。吹きだまり箇所での車の発進実験では、深さ20cmで発進困難となる事例がありました。

吹きだまりに注意し、無理のない運転を心がけましょう。 20cm 吹きだまりによる車の発進限界



暴風雪で一瞬にして数メートル先が見えなくなる(右) 稚内市内(2012年4月4日)